

一目で読める二千字の

『立正安国論』要旨

新聞 智照

客 近年の天変地異・飢饉・疫病の多発は何が故であるか。

主 神仏の力も効験がないのは、世がみな正法にそむき、善神も聖人も国を見捨てて去ったので、災難が起こるのだ。

客 はじめて貴説を承るが、その証拠を聞こう。

主 『金光明経』『大集経』『薬師経』『仁王経』に、かくかくしかじか説かれている。しかるに、人々は邪説を信じ諸仏諸経を捨てるので、善神・聖人が去り、悪鬼外道が災いを起こす。

客 (色をなして) 中国にも日本にも仏法は興隆しているのに、だれが仏教をけなしているものか。証拠あるなら聞こう。

主 なるほど、見た目には寺も僧も多くて尊ばれているが、彼らは悪比丘であって、『仁王経』『涅槃経』『法華経』にある通りのありさまである。

客 (憤って) 明王や賢聖がたが高僧と仰いでいるのを、なぜ誹謗するのか。悪比丘とはだれのことなのか。

主 法然が『選択集』によって衆生を迷わせた。かくかくしかじかと説いているが、諸仏諸経を捨てよ、閉じよ、閉じよ、抛てよと言ひ、聖僧人師をのしつてゐるのは、浄土三部経や『法華経』の文に背いている。だが人々は、浄土三部経と阿弥陀仏以外の聖教を捨て、偏つた浄土門を好み、正統の円教（法華経）を忘れた。

客 （色をなして）法然は学徳すぐれ、一切の經典をくり返し読んだ後、念仏を専修し、国中の人々に帰依されている。それなのに、釈尊の教え、弥陀の經文をそしるとは、何という悪言だ。

主 （笑つて）釈尊の教えには先後があり区別がある。法然は仏説の真意を知らない。その流れは汲んでいるが源を知らない。災いというものは、『摩訶止観』『入唐巡礼行記』にこういう例話があるように、前兆があつてのち災い起こる。法然の破仏の前兆により、今日の災いがあるのである。

客 （やや和らいで）だいたいわかったが、仏門には京にも鎌倉にも中心人物がいるのに、このことを上奏した人はいない。あなたは身分が低いのに、大それたことを言う。

主 わたしは諸経の王（法華経）に仕える身である。『涅槃経』にも「法を壊る者を見ながら何もしい者は仏敵だ」とある。また、上奏の先例もある。

客 （和らいで）法然が大乗經典を一括して「捨・閉・閣・抛」せよとした言葉は明らかになつた。だが、それを責めるあなたが是か非か定め難い。しかし、天下泰平は君臣のねがうところ、国は法によつて栄え、法は人によつて貴い。国も人も滅びては仏法も意味がない。災難を止める法があれば聞きたい。

主 謗法の人を禁じて正道の人を重んじたら國中安穩にならう。『涅槃経』『仁王経』『法華経』に詳しく説くように、大乘經典を謗るのは重罪で、謗法を禁める者は不退の位に登る。法華・涅槃の教えは釈尊一代の肝心で、この禁戒は実に重い。しかるに人々は『選択集』に迷ひ、諸仏・諸法・諸僧への信仰を弥陀仏・浄土三部経・念仏僧への供養のみ

に切りかえた。これが破仏・破法・破僧でなくて何であろう。天下の静穏のためには、この国中の謗法を断つべきである。

客 謗法の者を断つとは『涅槃經』にあるように斬罪にするのか。それでは不殺生戒を犯すことになる。また『大集經』には「破戒の者でも僧には供養すべし」とある。

主 なかなかわかつてもらえないな。仏子を禁圧するというのでない。ただ謗法を憎むばかりだ。經にあるのは、釈尊以前の仏教では謗法罪を斬っているが、釈尊以後の教えは布施を止めよとある。だから世界中の民衆が、謗法者に施さず善法に帰したら、災難はどうして起ころうか。

客 (襟を正して) 仏の教えは区々であって趣旨がきわめにくいだが、法然の『選択集』の非は明らかにした。謗法僧への布施を止めて、正法僧尼を供養し仏法を正せば、理想世界となるだろう。それから教義の深淺を考え、仏教の棟梁たる者を崇重しよう。

主 (悦んで) わかってくれてうれしいが、時がたてば忘れる。急いで対策を立てられよ。なぜなら、『薬師經』『大集經』『金光明經』『仁王經』にかくかくしかじか説かれているように、三災七難のうち二災五難がすでに起こっている。残りの「自界叛逆」「他国侵逼」の二難も必ず起こるにちがいない。国を失い家が亡びたら、あなたはどうするか。まして現世だけでなく後生もある。謗法を信じていると地獄の苦を受けることは『大集經』『仁王經』『法華經』『涅槃經』にある通りである。速かに実乗の一善(法華經)に帰依しなさい。そうすればこの世界は浄仏国土となり、身心ともに安穩を得られる。

客 今まで先達に従って念仏していたが、法を破る罪は深い。今後あなたの教えにより急いで対策をたて、泰平を実現し、自分の今生と後生をよくしよう。他人の誤りも戒めよう。